

より之を推定するに難らざるなり。齋藤内閣に次で来るべき内閣が再び既成政黨の一に歸するの日再現せむか、從來の醜態を再演すべきは火を賭るよりも明なるを以て、吾人は一層渾身の勇を揮つて本會の結束發展に力を盡し、以て本會設立の主旨貫徹を期せむとす。(昭和七年五月廿五日)

重大時局に對して

陸軍大將 田 中 國 重

吾人は本年五月齋藤内閣成立に際し、同内閣に對する觀察の概要を披瀝して以來、徐ろに其施政の經過推移を靜觀して今日に至れり。

而して今や同内閣眞價の試金石とも稱すべき臨時議會は既に終了せるを以て、更に其成績に就て不偏不黨の見地に立つて觀察するに、所謂非常時舉國一致内閣の名稱の下に生れたる現内閣は組閣早々地方官の人選、重要政策の上、事毎に閣僚間に意見の衝突を來たじ閣内の不統一を暴露せり。

一方内閣の支柱たる政民兩黨は、相互の協調融和を缺き、時局匡救の目的を以て召集せられたる臨時議會に於ける政府の提出案は重大時局に處する根本的のものにあらずして、何れも枝葉末節の應急救済案に過ぎず。又政

黨の提出案も同様にして、兩者は只だ形體を異にする程度のものなれば、其何れを採るも救済の程度には變りなきに拘はらず、會期短き議會に於て黨利的立場に拘泥し、數日に亘り激論を重ね、遂に會期を延長すること二回漸く末節の妥協により一時的救済案を辛うじて解決し得たるに過ぎず。而して政府は友黨を指導するの力なく、政黨は案を議するに當り、依然黨利黨略本位に墮して國家國民を輕視し、時局に適應する誠意ある審議をなさず。遂に非常時内閣の根本的使命は殆んど之を果すこと能はず國民の現内閣に對する期待は全然裏切られ、偶然にも本年五月吾人が聲明書中に開陳せる現内閣に對する豫想は正に的中し、齋藤内閣の前途に一大暗影を投ずるに至れるは頗る遺憾とする所なると同時に失望の念轉た切なるものあり。

本年五月十五日事件以來政黨政治家は漸く改心悔悟の狀を呈じ、政黨政治に對し大なる不満を抱ける一般國民も稍愁眉を開き、臨時議會は實地試練の好機會を與ふるものとして多大の興味と期待とを以て之を迎へたるに、豈計らんや臨時議會に於ける政黨者流の態度は從來と何等の變化を認むることを得ず、依然として國政を黨争の犠牲に供して毫も顧みざるの非達は吾人の眼前に展開せられて、國民の既成政黨に對する惡感と失望の念と益々深刻ならしむるに至れり。吾人より之を見れば既成政黨なるものは自ら墓穴を掘るの愚を演じたるものと評するの外なしとす。

政府は農村救済の應急的方法として所謂時局匡救豫算の名を以て七年度に中央地方に亘り、總額三億六千三百萬圓を支出し、向ふ三ヶ年間の總計は約八億圓を計上し、更らに各種政府の時局匡救資金の今後三ヶ年間に使用